

女性委員会通信

257
2019.6.18

東京都港区新橋六 七 一 川口ビル六階
全国労働組合連絡協議会 女性委員会
TEL 〇三 五四〇三 一六五〇
FAX 〇三 五四〇三 一六五三

女性活躍推進・ハラスメント関連法

ハラスメント禁止は付帯決議で今後の検討項目に 〜現在審議中のILO新条約を 批准できる内容に改定を求めている〜

5月16日に参議院で審議が始まった女性活躍推進・ハラスメント関連法は23日午前中参考人質疑、午後法案審議で審議は終了、28日朝21項目の付帯決議が付いて成立した。

参考人質疑では与党要請の2名の他、連合男女雇用平等局総合同局長井上久美枝さん、早稲田大学名誉教授浅倉むつ子さん、弁護士角田由紀子さんが各10分の意見陳述を行った。

労政審雇用均等分科会の労働側代表でもある井上さんは、女性活躍推進法案は一部前進だが、全ての企業を対象に、男女賃金実態を必須項目に、10年の時限立法を恒久法に。ハラスメント法案には禁止規定がないが国連女性差別撤廃委員会も禁止規定を勧告し、6月ILO総会で採択予定のハラスメント条約も禁止となっている、被害者の望む救済規定が必要とあるべき法の姿を浮き彫りに。浅倉むつ子さんは女性活躍のためには女性差別撤廃条約の選択議定書の批准をすべき。均等法を強化し性差別禁止法に近づけるべ

き、まず性差別の定義を。ハラスメントは人の尊厳を犯すものであり禁止規定はイロハのイ、今回できないなら速やかに検討が必要。女活法に男女賃金実態やハラスメント対策の整備状況を入れ、労働側の意見付与の仕組みやモニタリングの体制整備も必要と。角田さんは30年余にわたってセクシャルハラスメント裁判に関わってきた経験から、ハラスメントは人格権の侵害なのに、財産権侵害などに使う民法の不法行為を根拠にした争いでは損害賠償金も低く、被害者の救済につながる問題提起。その後議員からの質問があった。付帯決議には参考人の意見も反映されているが、国会審議で必要な修正を行ってほしいものだ。

今年100周年を迎えるILOの総会が6月10日から開催され、「仕事の場における暴力とハラスメント」に関する条約と勧告の審議が始まっている。付帯決議の20ではILO条約・勧告の採択を支持し、条約成立後には批准にむけ検討を行うこと、21ではILO総会等の動向も

女性の権利を国際基準に！ 女性差別撤廃条約・選択議定書批准を 求める請願署名を提出



講演中の浅倉むつ子共同代表

女性委員会も参加する「女性差別撤廃条約実現アクション」では選択議定書の批准を求める請願署名に取り組んできた。

6月4日その署名を提出する院内集会を参議院議員会館で開催した。院内集会では選択議定書の重要性について共同代表の浅倉むつ子さん（早稲田大名誉教授）が講演後、参加の議員14名からの挨拶を頂き、請願署名を託した。この間実現アクションでは請願紹介議員への要請に回り、今回63名の議員が紹介議員となって頂いた。集まった署名数は52184筆となった。



1年ぶりのJAL本社前行動に650人が結集！早期解決を求める声が響く
2月末に運動再開を決めたJAL争議は6月18日の株主総会に向け解決を求めて動き出した。連休前に提案された実行委員会形式による「JAL争議の早期解決をめざす関東キャラバン」が短い準備期間ながら5月20日の山梨県甲府駅前のスタートから茨城、栃木、群馬、千葉、埼玉、神奈川、東京とつながり、30日JAL本社前行動に合流した。キャラバン行動の参加者は延べ約1000名、チラシも11000枚、要請行動26団体、各地の支援者となつて争議団を励ました。

5月30日のJAL本社前行動は全労連・東京地評の総行動に引き続いて行われ650名の参加、150本の組合旗が集まり壮観だった。

1時間に満たない行動だったが、JAL経営に1日も早い解決の決断を求める大きな声が響いた。(Y)

踏まえつつ、更なる制度改正にむけ5年を待たずに必要に応じた検討の開始を求めている。
夏には女性活躍推進・ハラスメント関連法案の指針の検討が労政審で始まる予定だ。全てのハラスメントは人権侵害であると声を上げていこう。

座り込みが脅威であることを確信！

暑い日差しの中、宜野湾市役所から8kmの道のりを最後までシュプレヒコールを上げ続けた。こまめな水分補給をしていたがやはり暑い。

こんな暑さの中、大した装備も水分も食料もなく、逃げまどうことなんて絶対にしたくない。そんなことを思いながら行進していると通りがかりの方々や、マンションの窓などから手を振っている方々に気付いた。小さいお子さんが身を乗り出して手を振るのを押さえつつも、一緒になって笑顔で応援してくれる皆さまにあたたかい気持ちになった。

県民大会では、沖縄県民の民意を、それに連帯する人々の力強さを再確認できた。参加できて本当に良かったと思う。

辺野古のテント村にて撮影した「参加女性たちの集合写真」。この日は平和行進関連でウヨウヨしているほうに機動隊人員を割かれているらしいとのことで土砂搬入はなかった。座り込みを続けられていく方々の、「いつも平和行進があればいいのに。そしたらずっと搬入が止まる」という冗談まじりの言葉が印象的だった。確かに機動隊員は、演説を妨害してきた右翼にピツタリと張り付いていた。

ゲート前に行くのと、やたらと歩行者通路が狭くなっていた。広い敷地があ



私のお気に入り

今年から“筋トレ”を始めました。きっかけは、仕事が清掃のため中腰での作業が多く、足と腰を痛め、体力に少し自信がなくなっていたところ、タイミングよく友人から誘われて無料体験に参加したことでした。



普通、筋トレというと体を鍛えてムキムキになるキツイ運動を創造していましたが、週1回1日30分だけの無理のない運動なので、「やってみようかな」と思い、筋トレのスタジオに入会しました。ここ最近、筋力が少しいてきたせいか、体が軽くなり、清掃作業が以前より楽になったように感じ、腰の痛みも和らいできたような気がします。

年々体力が減少していくので、これからも筋力アップし、体力をつけて、大好きなディズニーランド・ディズニーシーに行き、身も心も元気に、遊びも仕事も頑張りたいと思います！

(全国一般東京労組メトロセルビス分会・森田信子)

るにも関わらず、わざわざあの場所に殺人鉄板やバリロードを置かないぞ」という強い意志で満ち満ちていた。それだけ、座り込みが脅威であることを物語っていると感じた。毎日のように座り込んでいる方々、住民の方々に連帯し、一刻も早く新基地建設を止めたいと思った。

全国一般三多摩労組 渡辺香織

沖縄平和行進に参加して

沖縄平和行進に参加してきました。

一日目は「アプチラガマ」。沖縄戦時、多くの負傷兵が置き去りにされ、故郷を想い、家族の名前を叫び、息絶えた「アプチラガマ」の塚に45分間滞在し、外に出たところには、本物の大砲が野ざらしで展示されていました。

二日目は、私がかつとも訪れたかった辺野古と高江に行きました。

キャンプシュワブゲート前のテントに着くや中にいた人たちが拍手で迎えてくれました。東京のマスコミ報道をうのみにして判断してはいけません。沖縄に来てわかった事、本当の事を伝えなければと強く思いました。

バスで一時間位で高江に。ヘリパットはすでに完成してしまいましたが、道路はまだ整っていないと。そして今年4月、米軍が夜中に私たちのテントを撤去してしまった。私たちは24時間体制で見張っている。ヘリパットは完成してしまったあと、こうして運動ができてるのは全国の皆さんの支援のおかげです、とお話がありました。

いよいよ平和行進へ

出発式を終え、宜野湾海浜公園屋外劇場まで約2時間半歩きました。途中何度か右翼の妨害がありました。ボランティアの方たちが、炎天下、道の角に立ってガードしてくれました。会場に着くと大きな拍手で迎えられ、私たちは一番前の席に座りました。壇上で発言される皆さんは、まず、ボランティアの方たちの労をねぎらってから発言され、必ずひとり一人と握手を交わされました。



団結ガンバローをする仲村みおさん (戦争と原発のない社会をめざす福岡市民の会HPより)

最後に山城さんが団結ガンバローを平和運動センター副議長の仲村みおさんに振りしました。突然、振られた仲村みおさんの言葉が清々しく会場が盛り上がりました。

沖縄は、忘れてはいけない何かを思い出させてくれた。

全国一般東京東部労組
メトロコマース支部 後呂良子